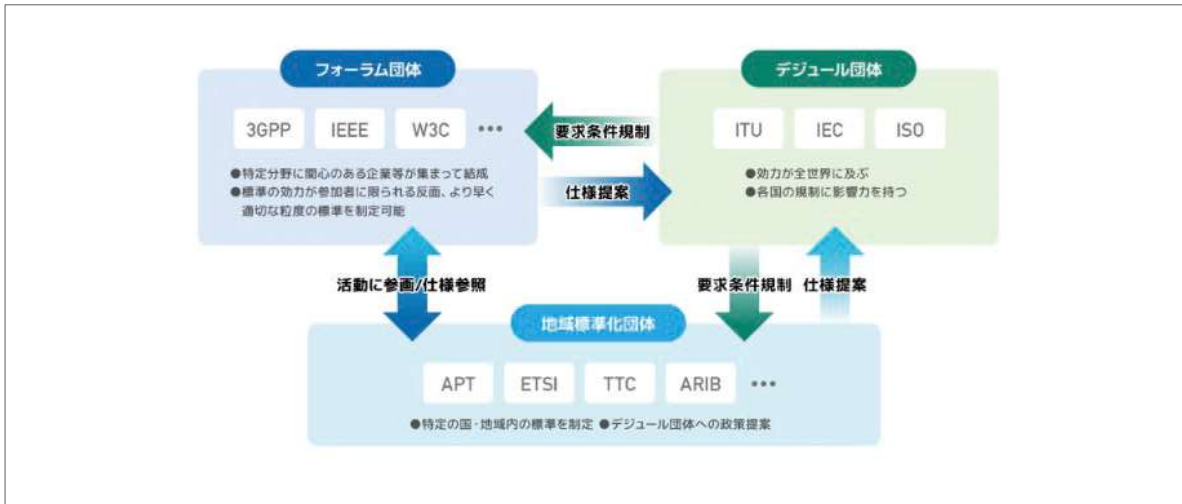
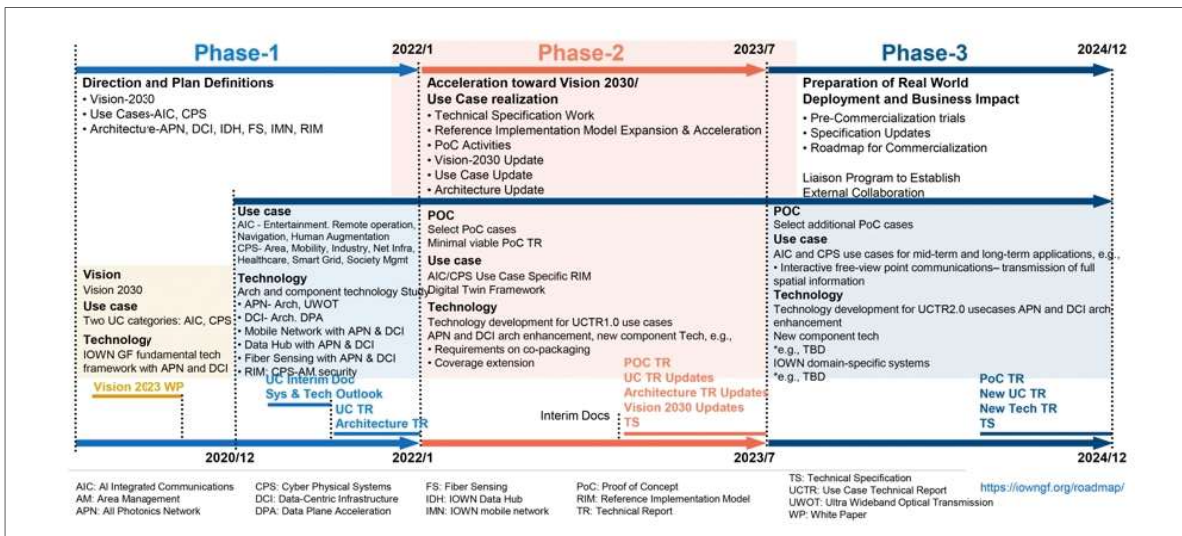


図表5-2-18 ▶標準化団体



出所：NTT「IOWN | NTTグループの取組み」

図表5-2-19 ▶IOWN Global Forum活動ロードマップ



出所：NTT『NTT技術ジャーナル』2023年12月号

範な展開を見せている。ETSI (欧州電気通信標準化機構) といった地域標準化団体、さらには3GPP (第3世代パートナーシッププロジェクト)、IEEE (米国電気電子学会)、TIP (通信インフラプロジェクト) や Open ROADM MSA などのフォーラム団体とも積極的に連携している (図表5-2-18)。

なお、NTT ドコモ出身の尾上誠蔵氏が2023年1月からITUの電気通信標準化局長に就任したことは、IOWN技術の標準化推進にとって大きな後押しとなった。

フェーズごとの活動

IOWN GF では、活動を約1年半ごとのフェーズに分けて段階的に推進しており、各フェーズにおいて明確な目標を設定し、取り組みを進めている。

・フェーズ1 (2022年1月まで)

最初のフェーズ1では、「Direction and Plan Definition (方向性と計画の定義)」をテーマに掲げ、Vision 2030の策定、主要ユースケースの特定、技術的な基礎フレームワークと検討課題の策定が進められた。特に主要な技術要素として、オープン APN、DCI、IDH などのアーキテクチャーが検討され、6つの技術文書が発表された。

・フェーズ2 (2023年7月まで)

続くフェーズ2では、「Acceleration toward Vision 2030/Use Case realization (ビジョン2030/ユースケース実現に向けた加速)」をテーマに設定。技術仕様やリファレンス実装モデルの策定とともに、PoC (概念実証) 活動が本格的に推進された。スマートファクトリー、スマートグリッド、メタバースといった具体的なユース